

郷土の偉人を紹介するために、平成26年阿南市文化協会から「阿南市の先覚者たち第1・2集」が刊行されました。
阿南市の発展に尽力された人たちの偉業を顕彰し、後世に語り継ぐために、27人の先覚者たちを奇数月に掲載して紹介します。

「阿波しじら織」創案者

海部 花

「阿波しじら織」とは、18世紀の末（江戸時代）に阿波で盛んに織られていた「たたえ織」という木綿縞（※縞模様を織り出した綿布）に、明治時代の初めに海部 花が改良して創案した織物のことをいう。

「阿波しじら織」の特徴は、縦糸と横糸の本数と組み合わせによる張力（※引っ張る強さ）の差によ



海部 花

って生み出された独特な凹凸を持つ。
改良のきっかけは諸説あるが、花が干していた着物が雨でぬれ、そのまま日光で乾き、布が縮んでしまったことをヒントに考案されたといわれている。

柄や模様を整えるためには張力差を計算しなければならず、卓越した技術と経験が必要であるが、凹凸があることにより、肌触りが良く、軽く、汗をかいても肌には張り付かないので、特に夏の衣装として人気がある。

昭和53年には天然の阿波藍を使用した「阿波しじら織」が『阿波正藍しじら織』として経済産業大臣指定伝統工芸品に指定され、さらに平成22年にはとくしま市民遺産にも選定されている。

花は天保2年（1831）に旧那賀郡平島村（現那賀川町中島）飛地となっていたため、よく横見町出身と間違われている。に生まれた。安政3年（1856）に旧名東郡安宅村（現徳島市安宅）の海部勝藏と結婚。勝藏は大工で、花は機織りの内職をして家計を助けていた。花は健康でいつも明るく朗らかな性格であったようだ。

花は織り方の工夫にも没頭していったらしく、そんな中、慶応3年（1867）に創案完成したのが「阿波しじら織」である。「阿波しじら織」の命名は、いち早く花のしじら織に関心を持ち花の商品を店で売っていた安部重兵衛といわれている。

「阿波しじら織」は、内外の物産陳列店、博覧会に出展し数々の賞を受けると、以前にも増して人気を博し、一時生産が間に合わない

ほどで、花は多忙な日々を送っていた。

明治19年（1886）に夫が他界すると、家業を娘夫婦に任せ、花は孫と一緒に小学校に通った。また社会奉仕にも喜びを感じていた。

大正8年（1919）、波乱万丈な人生を送った花は享年87で天寿を全うした。徳島市寺町の大滝山には花の功績を称えた碑が建てられている。



しじら織（民俗資料館所蔵）

参考資料

「阿南市の先覚者たち 第2集」
2014・阿南市文化協会

次回、作家「佃 實夫」を紹介します。